

松代藩文化施設管理事務所だより

第14号

六^む連^{れん}銭^{せん}

平成16年1月発行

〒381-1231 長野市松代町松代4-1(真田宝物館)

復元される松代城



松代城・太鼓門

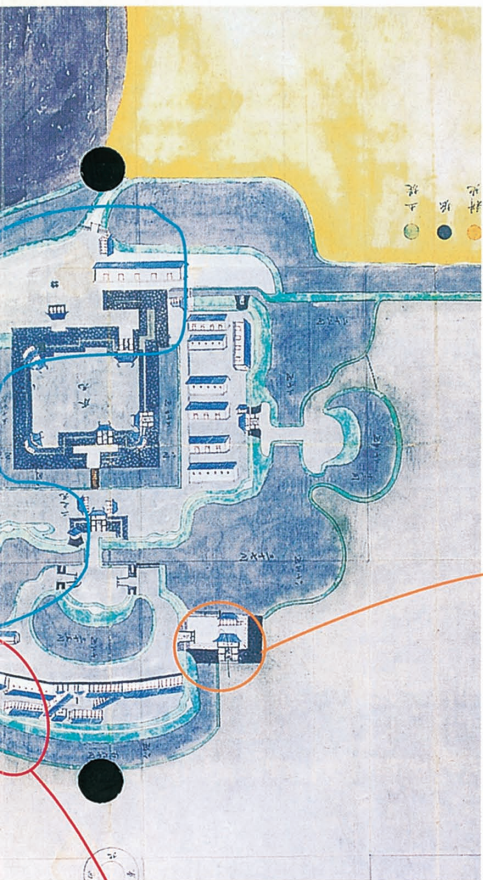
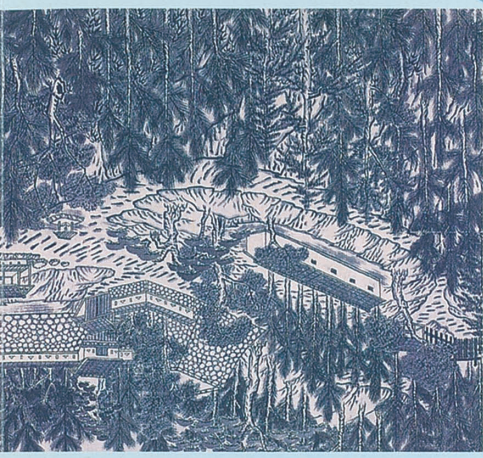
回想

江戸時代の松代城

松代城は海津城の名でよく知られています。城という軍事施設とか防衛施設をイメージされがちですが、江戸時代のような戦闘が行われない平和な時代になると、その役割も「公儀」の場としての性格が強くなります。城には藩を統べる藩主がいて、藩政を審議しました。また、この城を中心としてまちが形成されていきます。

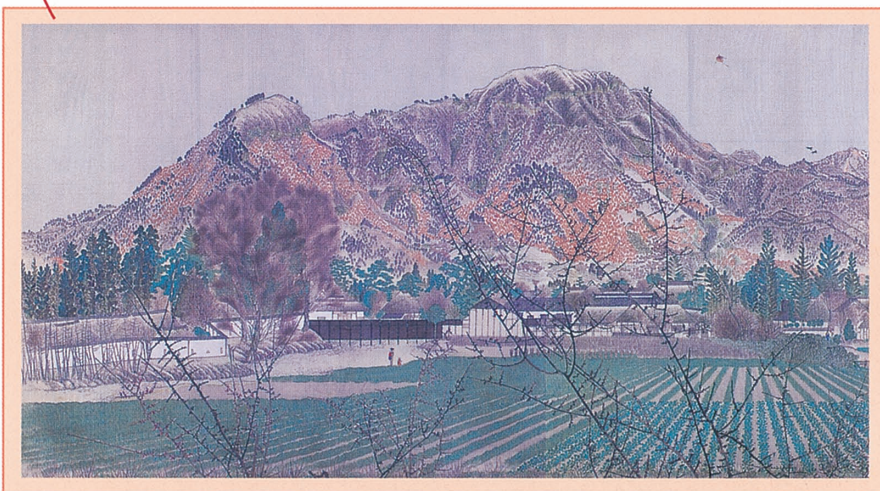
このように、江戸時代の城は戦闘を前提としていないため、その機能にも軍事的な色彩といったものが弱くなってきます。

ここでは、江戸時代の終わり頃に描かれた絵をもとに松代城を立体的に復元しました。松代城の中心の機能は、本丸から「花之丸」という場所に移っています。城には殊のほか樹木が多くあります。城を取り囲む土塁には白い塀が連なっています。断片的に残された松代城を描いた絵図を並べてみると、意外と松代城をイメージしやすくなります。

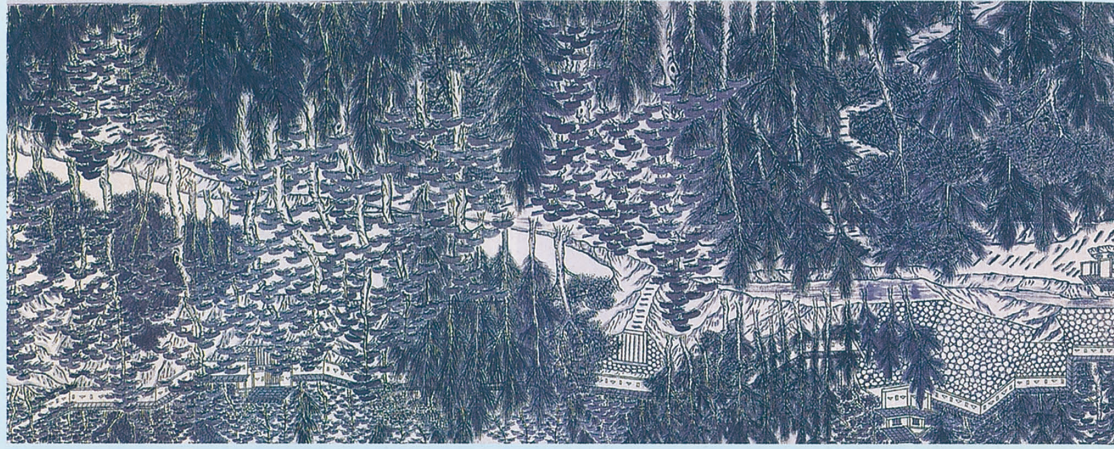


大御門前での大御門踊り(松代祭礼図巻)

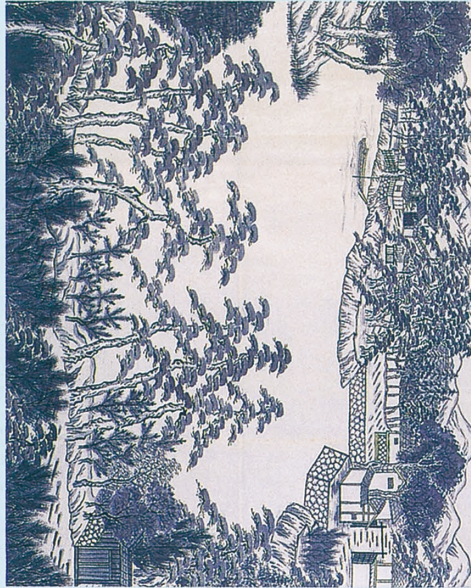
江戸時代の松代城建物の図(長野市立博物館蔵)



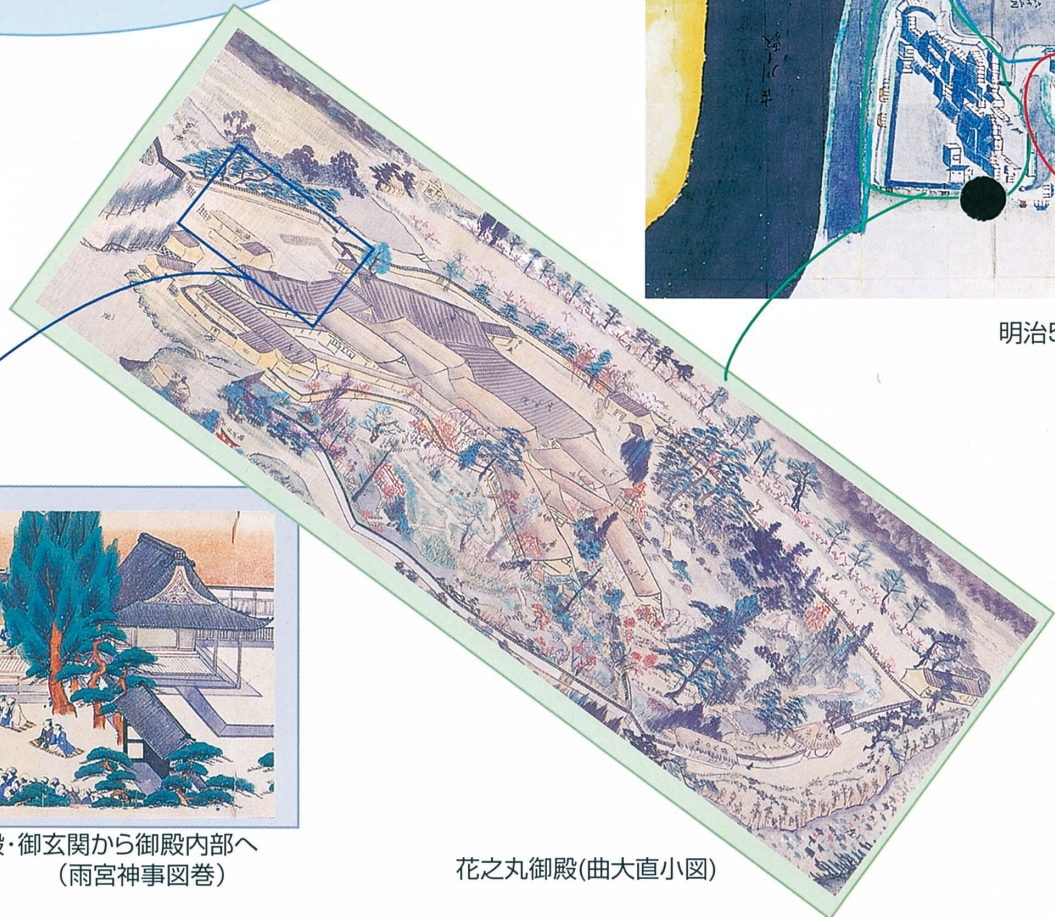
松代城南端の土塁と堀(一圭楼眺望南東図)



本丸の北から東をめぐる(松代城内図)



明治5年



花之丸御殿(曲大直小図)



花之丸御殿・御玄関から御殿内部へ
(雨宮神事図巻)



浩然館三亭図巻



花城内池図並八景園詩

残された景観 「松代城・花之丸御殿の南庭園」

真田家伝来の絵巻のなかには、松代城を描いたものがいくつか残されています。このなかから、江戸時代の松代城を復元してみましよう。上に掲載した二つの絵巻は、一目見ただけでは似ているという印象を受けませんが、アングルを変えて描いていると考えると、全く同じ庭園の様子であることに気がきます。そして、前ページの曲大直小図という花之丸御殿の様子を描いた絵を見ますと、どうもこれは、花之丸御殿の南庭園の様子であることが確認できます。時代的には江戸時代の終わり頃といったところでしょう。

大名庭園は、概して各地の名所や旧跡を取り入れるということが知られています。下の絵には庭園の石など一点一点に名前が付けられています。

ところで、左写真は今現在花之丸御殿跡に残される二つの石です。この石は絵を参照すると「立石」「添石」という名がつけられていたものであることが解ります。庭園のシンボリックな存在として意識されつづけ、城がなくなった今日まで残されたのでしょうか。

